

組合だより (1)

組合だより

発行所 中標津農業協同組合・中標津町農業共済組合

発行 昭和47年1月1日新春号・印刷 板野印刷有限会社



1972

謹賀新年

昭和47年

中標津町農業共済組合

組合長理事 正城 武

外 役職員一同

中標津農業協同組合

組合長理事 鷺見 孝男

外 役職員一同



中標津農業協同組合

組合長理事 鷺見孝男

混乱と多難の年ともいえるし、年を送り、新しい年を迎えることになりました。昨年は私共も二十年

年来の冷害凶作で頭を打たれ、ドルショックや農産物の自由化における被害が深刻で、国際競争に投出されそうなる不安感等、今迄にかつてないような大変な年でありましたが、これらの諸問題は総て未解決のまま今年に持ち越され

年頭にあたって

輝しき一九七二年の新春を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、年あらたまり、新たな抱負に胸ふくらませて、この新しい年を迎えられたこと、と思います。

昨年、北海道は稀に見る冷害大凶作にみまわれ、重ねてドルショックによる景気の後退、農畜産物



中標津町農業共済組合

組合長理事 正城武

ならない、今こそ吾々は「力強く生抜く」という農民固有の精神に立ちかえる必要があり、自分の力で進む気のない農民は農業者として失格である。私はこの難関を自からの試練として乗り越えてこそ、おのずからこゝに新しい道を開けるものと信じて居ります。

幸わい私共もが苦勞して築いた地域農業は今年の冷害にも負けず又国内で国際競争に対応出来る唯一の農業と注目されて居りまして新酪農村計画や、その他思い切った振興策が検討されております。私達は自分の力と可能性を信じ新しい希望と目標に向って邁進す

質低下を見たとは申せ、平年策をさほど下まわらずに終ったことは組合員皆さんの日頃の努力の賜ものと存じます。さて、本年は皆さんもご承知の通り、家畜共済の掛金率改訂期を迎えております。

過去三カ年間の危険率によってはじき出されるこの掛金率が、どういう数字になって現われてくるかは、まださだかではありませんが、あまり樂觀出来ないものがあるように推察されます。

一方、今迄二十九頭まで頭打ちされていた国庫負担二分の一の関係のものが、今度は四十九頭まで

べき時であり、農協も今年からは「生産性を国際水準まで」を合言葉に組合員の力と意志の結果のもとに、進む覚悟でございます。組合員各位の御協力と御健勝を心からお願い申し上げて年頭の御あいさつといたします。



と、制度も若干改正が加えられることになりました。これ等の点も詳細農林省発表がありませんが、発表後は部落懇談会等でご説明致しご協力賜り、新事業年度の推進に遺憾なきよう致したいと存じます。おしまいに、組合業務も、各位の絶大なるご理解と両農協のご協力によりまして、計画通り推進出来ていることを礼申上げると共に本年も相変らずのご指導賜らんとをお願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。



☆皆さん、明けましておめでとうございます。うございませう。組合だより

新春号をおとけ致します。今年は東洋で初めての冬期オリンピックが、郷土札幌で開催されるといふ記念すべき年、何か素晴らしいことがあるような気がして、よい一年でありたいと願う気持です。皆さまも、さぞかし多くの抱負を持たず、農協、共済共同の広報誌です。年頭の辞は、それぞれ両組合長にお願いしました。また今年の冬は、長期の天気予報で比較的雪が多くなるということで、中標津農協管内の除雪路線をのせてみました。皆さまの持段の協力をお願いいたします。また、最近利用が多くなってきた「くみあい高度化成」についても若干ふれてみました。☆一方共済組合の関係では、肉用種として、このところ利用がみられるシャロレーなどの交配について、その長短に触れています。また当地方の家畜の病気の発生状況とその対策などを考えてみました。☆この「組合だより」も今回で二号目、なかなか思うようにいきませんが、今年も頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

くみあい高度化成

高まる管内の利用度合

高度化成とは成分の合計量が三十パーセント以上の化成肥料を言う。化成肥料という名称は正規ではなくこれは昭和三十一年十月に肥料の公定規格が改正され複合肥料という新しい種類が出来た。

現在迄の化成と配合の二つが統一されたもの、現在迄の化学肥料を便宜上粒状複合肥料とし配合肥料と区別し高成分の化学肥料は商

度粒状複合肥料と言うべきで便宜上高度化成肥料と呼んでいる。

成分三十パーセント以下の普通化成(低成分と区別して)居り普通化成は窒素源に硫酸、塩安、石窒など又磷酸源に過磷酸、熔磷などこれに加里塩を配合しアンモニアを加えいわゆるアンモニエーションをおこない造粒したもの。

しかし高度化成の大部分は磷酸

ご存知ですか?

共済連の建築資金

農協の生命共済、建物厚生共済自動車共済等の歴史は比格的に浅い。しかしその業績の伸長振は世界の保険業界でも驚異的。国内で第二位の保有高を示して居り、農村の発展、農協事業の伸長と表裏一体、組合員の生命、財産の保障等大きく貢献して来たことは周知の通りである。その中で共済連の福祉事業の一つとして、農家建物建築資金

の貸付制度がある。

その条件等簡単に例記しますが四十七年度ご希望の方は共済係

又は組合員係にお尋ね下さい

貸付金額最高参百万円迄(所要建築工事費の六割以内)

貸付利率年八分

償還期限拾五年(据置なし元利均等)

保証人二名、低当権設定

借受者の資格、生命共済又は建物厚生共済の契約者

融資対象物件に貸付額以上の火災共済、又は建物厚生共済の加入等である。

液とアンモニアを配合させて居る

が成分の高い磷酸アンモニア(燐安)をつくりこの燐安を母体にし、こ

れに硫酸、塩安、尿素、加里塩を加えて化成したもの。

この燐安の燐酸と窒素の成分割合は肥料として適当でない、こ

う言ふ単肥はその成分を調節するた

めに加えるので、今作られている

高度化成の大部分はこの燐安系の

もので高度化成の伸は戦後肥料史上特筆すべきで特に近年は高度化

成の消費がめだつて多い。

高度化成は原料や副産物の高度利用による企業の合理化が可能であるし運賃なども安くなるという利

点もある。

一方運搬、施肥労力の節減等も考えられると共に価格も割安となるので高度化成の需要は一層増加されると思われる。

当根室管内に於てもその増加が著しいものがあり、昭和四十三年

は二千二百四トン、四十四年二千

九百八トン、四十五年三千百十九

トン、四十六年六千三百四十四と

四年間の平均が百三十六パーセントの増加となつて居り、四十七年

は八千トン以上の高度化成が施肥されると思われる。

47年度生産資財は

期日内に発注を

営農資材発注期日が迫りました。生産資材の申込については既に組合員の皆様に申込書を各農事会長さんを通じて配布したが、申込については、先に営農部より肥料の施肥基準書を参考として作付反別に応じて正確な

数量を一月六日迄に申込のこと。猶早取肥料を申込されて、既に受取つて居る分については今回の申込書には重複注文となるので記入しないこと。価格は肥料のみ加里、燐酸等若干ではあるが値上げ予想されるが、申込書は値上げ予想の概算価格、種子と農薬は未定のため前年度の価格を記載したので御了承願いたい。

配合飼料が

アメリカの原料事情の緩和、とうもろこし、マイロの豊作

によつて十月一日よりホク

レン・雪印外

各社値下げ差

はあるが、一袋当り乳配十

五円鶏用三十

円程度の値下げとなった。

又四十七年一月より各メ

ーカー共一律ではないがホクレン

・雪印等は乳配三十一円其の他畜

種別に異なるが再度大幅に値下げされた。原料の八十五パーセント

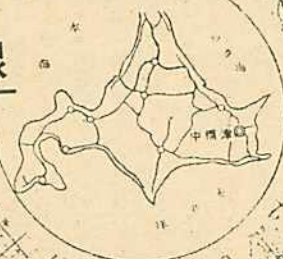
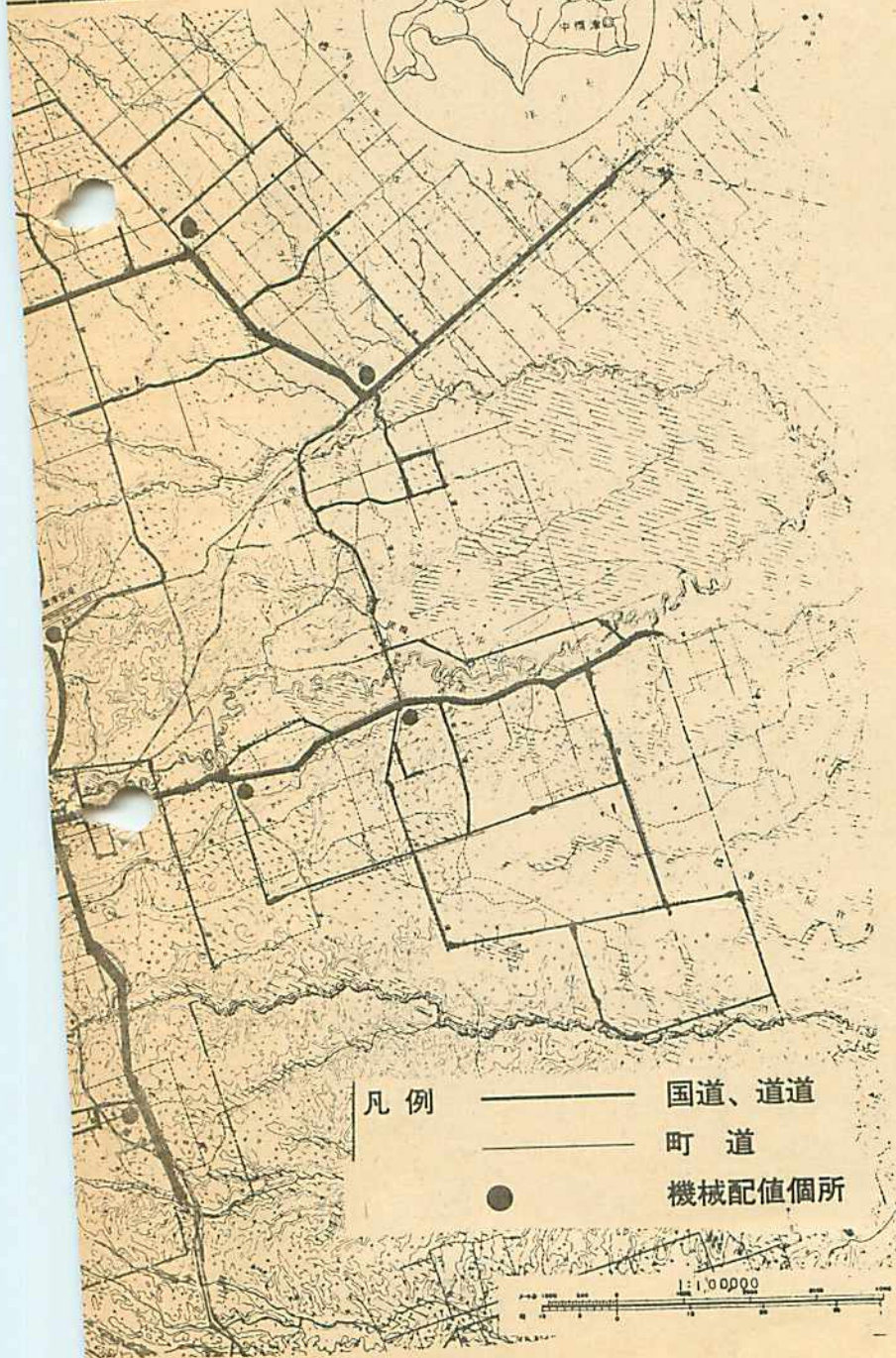
配合飼料値下げ

主産地の農作で

海上フレート運賃の動きに左右され、昨年二度に亘る値下げがなされたが、今年はとうもろこし、マイロなどアメリカ産新穀物の生産が前年比百三十パーセントを見込まれており、過去一年間つづいた暴騰相場に終止符を打つことになったもの、配合飼料の値下げ幅は各飼料の配合割合などに応じて変り、畜種別に見ると成鶏配合、豚、牛用の順で値下げとなった。しかし人工乳については脱脂粉乳の大幅な値上げに依り一月よりミルクK三十一円から四十円、カフミールK十四円程度各社一律ではないが値上げが行なわれた。当農協の飼料取扱高和年四十五年度は二億二千五百万今年度の取扱予想高は二億六千万で前年比百二十五パーセント以上の取扱高となる見込みである。

町管内図

地域 除雪路線



今冬の除雪路線決る

今年の除雪路線が別図の通り決定いたしましたので御協力を願います。

なお、今年一月、二月の気象庁の子報を下の方にせましたが、そ

れによりますと、雪の量も多くなりそうな気配です。

しかし、左図に示した除雪計画にもとずいて、道路の確保に万全を期したいと考えております。

1月2月



天気予報

本年一月、二月の天候は次のように経過しましょう。

一月 上旬に一時あれもようの日があるが、その後冬型の気圧配置がくずれ、この季節としては比較的温暖に経過しましょう。

下旬には再び大陸の高気圧が発達して、寒さがきびしく時々風雪が強まるみこみで、多雪地帯では

局地的大雪のおそれがある。

二月 月始めは季節風がや、強く気温も低めだが、その後大陸の高気圧が弱まり、中旬は低気圧と高気圧が交互に通るようになるみこみ、しかし、下旬には発達した低気圧が現われて風雪が強まったあと、寒さのもどりがありそう。

津標中

協農津標中

昭和46年度

各地区センター長名簿

地區名氏

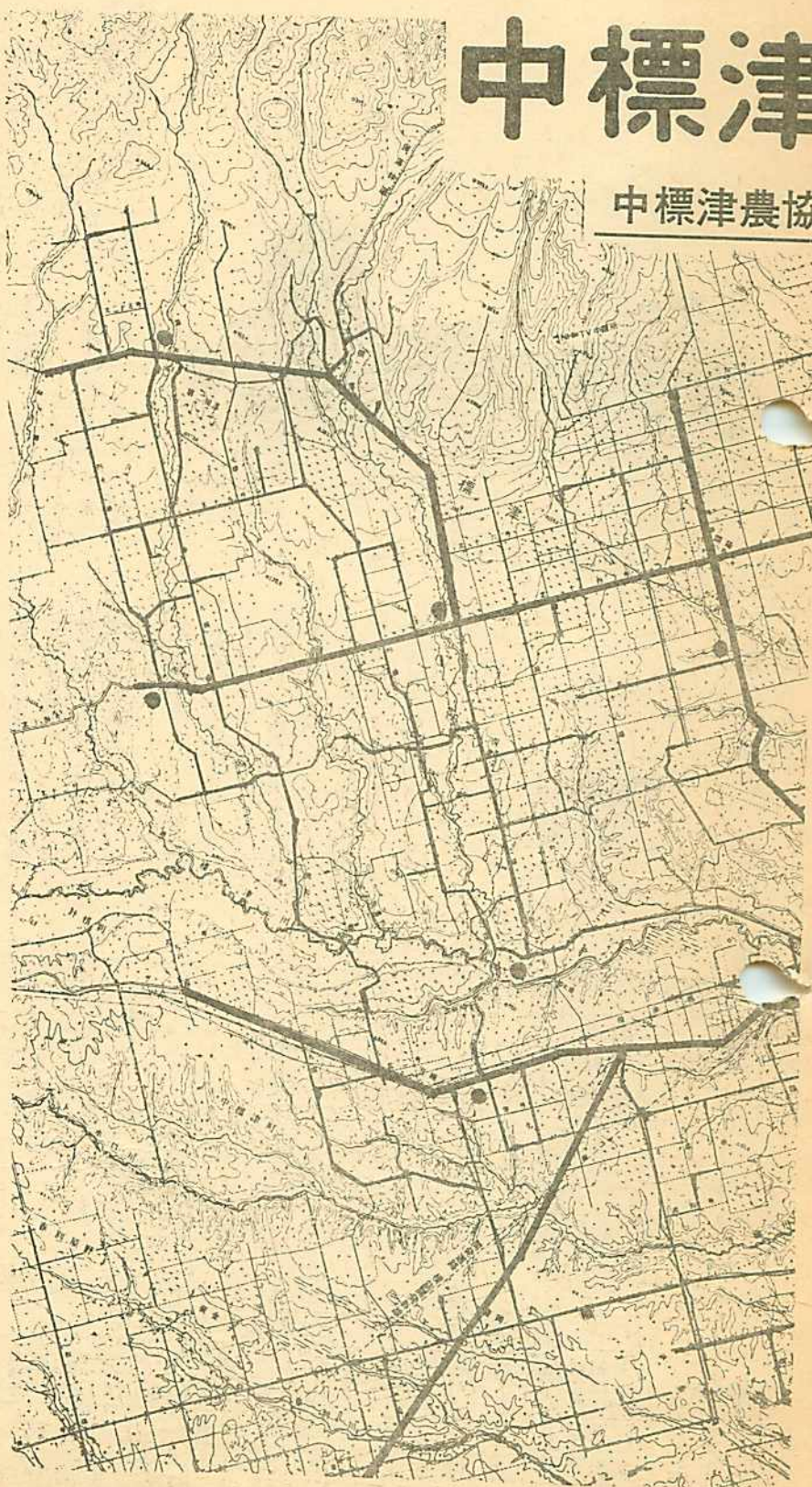
電話番号
②五二〇九
②五二九二
②六二三三
武佐九一五
②六三二六

北川	大島	砂利工	上田組	施行業者名	電話
②三四四〇	②二一一四	②三二四八	川北四五		

空	北	当	協	侯	地
港	進	幌	和	落	區
地	地	地	地	地	名
農	佐	鈴	林	服	氏
協	伯	木		部	
	征	吉	仁	一	名

電話
②七 一六八
②八 三〇二
②八 二四一
②七 三〇七

大島	生連	農協	渡辺	施業者名	電話
②二二一四	②三二六四	②三二七五			



成果が期待される 集団肥育施設

現在標津町と山にフィードロットを建設中であり、その大部分の工事も終つていよいよ十二月二十日オープンすることになりました。

このフィードロットは、国、及び道の補助をうけ、いわゆる土地集約利用型（寒冷地型）として全

国で初めての施設であり、その概要は次の通りです。

所在地 標津町と山

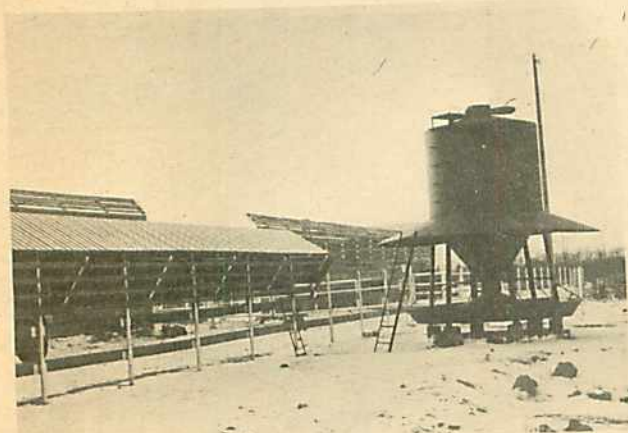
敷地面積 二六〇、〇〇〇㎡

収容頭数 五〇〇頭

(年間一、〇〇〇頭)

有畜舎 二五〇頭(二回転)

無畜舎 二五〇頭(二回転)



完成をみたフィードロット

根室は、酪農王国北海道の中軸として、飛躍的な躍進を続けてお

り酪農の安定に加えて、従来副産物として屠殺処分されていた乳用雄仔牛に付加価値を与えて販売することにより、酪農に畜産をとり

入れ、更に安定化を図ることが生産者からの強い要望でありました。

そこで組合員の皆様が生産した

乳用雄仔牛は、生後十五カ月、十八カ月を草主体で生体三八〇kg、

四〇〇kgに育成し、その後、六カ月肥育して食肉となりますが、この肥育を行うのがフィードロット

であります。

従来乳用雄仔牛は、相場に左右されながら不安定の中で販売されて来ましたが、フィードロットの完成により哺育から肥育まで一環事業として進めることができ、計画生産、販売と、価格安定の基本原則の確立に寄与するものとして各方面から期待されております。



改正される

組勘報告票

四十七年一月より皆様の手もとにお届けする組合員勘定報告票の様式が左のとおり変更になります。内容を充分ご理解いただき皆様の

営農管理にご活用願います。

尚改正される主な点は

◎収入、支出の項目欄が区分されます。

◎収入項目の営農コードが変更されます。その上明い二色刷になりますので、今迄のとかく見ずらい、わかりずらいとの不評も解消される予定です。

従来のもの		改正後のもの	
コード	項目	コード	項目
01	米	01	生乳
02	豆類・雑穀	02	生乳補給金
03	馬鈴薯	03	肉用牛
04	てん菜	04	牝牛
05	青果	05	けい卵豚
06	その他農産物	06	その他畜産物
10	肉畜	10	てん菜
11	生乳	11	雑穀馬鈴薯
12	けい卵	12	青果
13	その他畜産物	13	その他農産物
20	農外収入	20	農外収入
21	資金借入	21	資金借入
22	資金受入	22	資金受入
23	その他収入	23	その他収入

生乳の販売代金の受入

補給金の受入

肉牛、肉用牛の販売代金の受入

乳牛の販売代金の受入

けい卵豚の販売代金の受入

上記以外の畜産物の販売代金

てん菜の販売代金の受入

雑穀、食用芋種芋澱原の販売代金の受入

野菜果樹の販売代金の受入

上記以外の農産物の販売代金の受入

林産物の販売代金各種受入利息及び賃料等の受入

長期借入金の受入

貯金の引出共済金満期解約及び有価証券譲渡金等の受入

組勘受入超過額の繰越高その他上記以外の受入

「管理にもう少し工夫を」

病類別発生状況に思う

家畜の病気の発生状況をみてみると、またぐされや、蹄の底からだんだん球節の方へのぼつていく病氣、ビッコといった運動器の病氣がふえる傾向を示している。

こうしたものの中には、ちよつと衛生管理や、栄養管理をほどこすことによって、未然に防げると

思われるものも多いので、そういうことを考慮に入れながら、病類別の発生傾向をみていこうと思う。

家畜が多頭数飼育になると、それに伴った病気の発生傾向が生ずるといわれているが、中標津農協管内の発生状況について、まず別表によりみることにしよう。

これは乳牛の病気の病類別発生状況を、昭和四十二年から四十六年(四十六年については九月末現在)まで、年代別の発生率をパーセントで表わしたものである。

全身病(ケトージス、栄養失調症など)は四十三年には減少しましたが、その後エンシレージの増加に伴って若干の増を示している。

消化器病、つまり胃と腸を中心

とする病氣は、多頭数飼育になるにしたがい、半減に近い状況になっており、管理の向上が原因と考えられる。

運動器病が

増加傾向を示す

呼吸器病は流感の発生した年もあったが、全般的には変動が少ない。

心のうたや心臓衰弱などの循環器病は減ってきている。

ところが、膀胱や腎臓、難産、後産停滞、産後起立不能症などは少しずつではあるが上昇し、繁殖障害などによる不妊症、乳房炎や乳頭の病氣なども増加の傾向をみせている。

また、蹄や筋肉、関節などの運動器の病氣が増加し、一時は趾間腐爛(またぐされ)が急増、最近では、蹄の底が腐つて、だんだん球節の方へのぼつていく病氣が増え、お産や、発情牛に乗られたとかで起こるビッコも増えている。

皮膚病は管理がいきわたるよう

になったためか減っており、ケガなどの外傷不慮、中毒や目耳の病氣も減少している。

以上のことから言えることは、胃腸の病氣や心臓、肺臓、中毒、ケガ等の病氣の発生率よりも、足腰、蹄、繁殖障害、乳房の疾患の発生率の方が高くなっているといふこと。

足や蹄は、家畜の体の柱でありこれが痛んでくると、能力がさがり、あるいは寿命までも短かくしてしまふ。

こゝで注意したいことは、糞尿の溜った尿溝に足を入れないように工夫すること、夏は泥濘地の歩行を無くするか、少なくすること、また、冬期間の運動や削蹄も大切なことである。

不妊症では、先頃行なった各戸毎の損防の検診結果も合せて考えてみると、過去には三〇%から四十%ぐらいあった子宮の病氣が、

十%から二十%程度に減少し、飼料の関係や運動などの管理から起る卵巣疾患が八十%から九十%もあり、治療に際しても、栄養剤や胃腸薬を与え、あるいは配合飼料の適正化や、良質乾草の給与を行なうなどの前処置をしなければ、ホルモンの注射が効かないケースが増えてきている。

こういった経営基盤全体からの

対策が望まれるわけである。

その他に気をくばりたいのは、産前の増し飼いと、産後の休養のリズムの確立であろう。気候には春夏秋冬があり、海には干潮、満潮があるように、動物の体にもそれぞれ潮時があり、巧みに生かしたい技術の一つです。

次に乳房炎だが、今迄述べてきた色々な管理をしても、乳房や乳頭に故障を起しては水の泡となつてしまふ。

最大の要点は消毒薬や治療薬にあまりたよりすぎないこと。牛体の抵抗力を高める健康な飼育管理牛舎や機械の清掃が必要である。

乳房、乳頭などは清潔なお湯で充分に先浄し、一頭一頭に目の行きどといた搾乳の仕方がポイントとなつてくる。

不幸にして乳房炎になり、ちよつと危いと思つたら、獣医師にみせるか経験上一番よく効くと思われる注入薬を思い切つて入れてみることもよいと思う。

かかつてから四日以内ぐらいいに良

い手を打たないと、治つてもずつと減乳することが多い。

特に多頭数飼育化がすすんでいる現在、三頭も四頭もそういう疾患牛が出ると大きなマイナスとなる。

粒寄りのものを一頭ずつ、最高の管理技術で飼つて行き、頭数をふやして行くこと、これが本当の少数精鋭主義であり、本当の多頭数飼育の妙味じやないかと思う。

乳牛の病気の発生状況

疾病	年度	42年	43年	44年	45年	46年9月
伝染病	0.3	0.6	4.6	1.9	1.1	
全身病	5.0	2.8	4.6	4.0	5.4	
消化器病	12.6	9.6	7.4	6.5	7.3	
呼吸器病	1.8	2.2	1.6	1.6	2.2	
循環器病	1.9	1.8	1.1	0.9	0.7	
泌尿産科	11.6	11.2	9.3	12.3	13.8	
不妊	21.3	26.8	24.1	27.7	25.3	
乳房疾患	28.3	29.8	28.9	29.9	24.4	
運動器病	7.4	8.3	8.3	10.3	15.8	
神経	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1	
皮膚病	1.2	2.4	0.7	0.9	0.6	
外傷	2.6	1.6	2.5	1.8	2.0	
その他	6.0	2.8	4.0	2.0	1.3	

一代雑種を考える 改良には好ましくない

最近、当町でもシャロレーとかヘレフォードなど、肉用種をホルスタインにかけあわせるものが見られるようになってきた。

一般に一代雑種は両方の良いところが出る率が高いといわれているが、二代目以降は悪い点が出る率が高いといわれ、乳牛飼育を本来としている当地方では問題点が多いといわねばならない。

種の改良という面から考えてもこれはマイナスになることであるし、こいした冒険を試みるより、半数近く生産されるオスを上手に利用することを考えた方が、一石二鳥という気もしてくる。

以下、新得の農業試験場でまとめたデータをもとに、この点を考えてみようと思う。

管内の乳牛の飼育頭数はほとんど多頭化し、三十頭、五十頭搾乳と大規模化しつつある、しかし、これも、土地とか労力などの関係でおのずと限界がでてくる。

こうしたことから、当然考えられるのが、量より質向上への努力ということになると思う。

必然的に駄牛は淘汰され、それを肉牛として利用してこそ価値が出てくることになる。

肉牛について考えてみると一般に肉肥育として飼育する場合、経済的な面を考慮して、短期飼育が必要であり、二十三月令から、

ホルスタイン 牝牝利用を

だが、寒波のきびしい当地方でこれを行なう場合、普通三十ヶ月令以上の飼育が必要といわれ、経済的な面で問題を生じてくる。

一代雑種の飼育は乳牛より簡単で、粗飼料に耐えるという定説があるが、いずれにしても、それに

相応した育成技術が要求される。

かりに、乳の生産と肉の生産を同時にこなさねばならない場合、この一人二役の作業は、余程の計画性がなければ、謬にもある通り、とらぬ狸の皮算用ともなりかねなくなってくる。

確かに国の施策としても、肉資源の不足問題は言々されているが、乳牛の改良という点に重きをおいている人工授精、また繁殖にたずさわっている指導機関の立場から言えば、あまり奨励出来ないというのが本音である。

なぜなら、乳牛を土台とした一代雑種の生産は、個体の改良向上は全く望めないからである。

人工授精の本来の目的は改良という点であり、個体資質の向上、乳の生産、個体の消費販売が充分なされるところに経済効果がでてくる。

そこで、一代雑種生産という冒険をおかすより、あくまでも乳牛の生産にとりかかると、そこで生まれてくる半数近いオスを肉として利用してみることを考えた方が、得策ではないかと思う。

ここで、新得の試験場でまとめたデータと別表によりみてみようと思う。これはホルスタインにシャロレーの種をかけて生産された牝牝C種と、ホルスタイン同

種をかけあわせて生産された牝牝D種の比較である。

C種、D種共に育成期に粗飼料を多給し、肥育期三ヶ月と、二十二月間の幼令肥育を行なった成績である。

まず発育状況では、全期一日平均の増体量はC種が七八グラム、D種が七四四グラムで、終了時の体重はC種が五六一キログラム、D種が五三六キログラムであった。

次に飼料の摂取量及び利用性をみてみると、全飼育育成期ではC種よりD種、肥育期では反対にD種よりC種のほうが少なくて、利用性が良い。

次にと殺解体結果をみると、枝肉歩止りは、C種が五八・六パーセント、D種が五四・七パーセントで、肉値には差が見られず、脂肪交雑も少なかった。

こうして新得試験場の試用結果を分析した場合、終期仕上りでも、増体量、枝肉歩止りでも、

一代雑種C種とD種の発育状況比較 (新得 畜試)

区 分	体 重 kg			
	C 種		D 種	
	体重	日増体重	体重	日増体重
開始時(7月分)	47.6	—	47.6	—
哺 育 期	108.7	0.736	105.5	0.698
育 成 期(含飼)	348.8	0.631	348.8	0.637
育 成 期(放牧)	442.0	0.926	419.0	0.693
肥 育 期	561.0	1.305	535.5	1.295
全 期	—	0.783	—	0.744

注：各期の終了時点における測定値を示した。

C種とD種で、その差は五から八%程度である。

ちまたでは、五割近い増体がみられるなど、いう声もあるが、実際はこの程度である。

それに一代雑種の生産でその半数近くはメスが生まれると思われ、それは乳牛としての能力は半減するし、二代目の生産畜は遺伝的に好ましくない結果が出る率が多い。

このようなことを充分考慮に入れて、牛の繁殖には、先のことも考えながら、めて欲しいと思う。

★総代協議会開く

中標津、計根別両地区で

〈共済組合〉

中標津町農業共済組合では、去る十一月、総代員（共済連絡員）の参集を得て、中標津、計根別の両地区に別れ、総代協議会を開催した。

これは、事業の推進状況や、制度のしくみ等、組合員の一層の理解を得るために開かれたもの

で、計根別地区は十一月二十五日、中標津地区は翌二十六日、それぞれ計根別畜産センター、中標津共済組合研修室を会場に、いずれも午前十時半より開かれた。

計根別地区では総代、組合長、地元役員等二十六名の出席があった。

恒例により

正月三カ日は
全休させていただきます

★年末年始は次のようになります

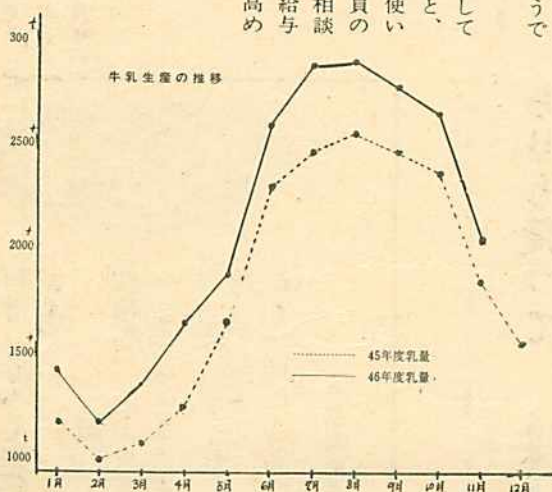
- ◎十二月二十八日 御用納め
- ◎十二月二十九日～三十一日 日直付
- ◎一月一日～三日 全休
- ◎一月四日～五日 日直付
- ◎一月六日 御用始め

中標津町農業共済組合

冬期間の乳量を高めよう!!

この冬の生乳生産は、昨年の異状気象により、越冬飼料の量、質ともに悪いのでさらに下降線をたどりそうです。

現在準備している粗飼料と、配合飼料の使い方は、普及員の方々とよく相談して適切な給与をし生産を高めましょう。



一方中標津地区では三十五名の出席があり、昭和四十六年度上半期の事業概況、共済制度のしくみ今後の共済制度のあり方等の説明がなされた。

また、一般質疑では、共済金の計算方法、共済掛金のしくみ、業務遂行体制など活発な意見が多数出され、いずれも午後三時半頃盛会のうちに終了した。

7/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
45乳量	1,169	981	1,081	1,252	1,643	2,291	2,441	2,544	2,446	2,368	1,864	1,556
46乳量	1,407	1,179	1,355	1,623	1,883	2,559	2,820	2,896	2,776	2,628	2,037	
前年比	120	120	125	129	114	113	115	113	113	111	109	
根室管内前年比	115	113	120	125	113	113	115	111	110	106	106	

意外に多い赤信号

成人病検診結果まとまる

去る九月十六、七日の両日実施

した成人病検診の結果は、それぞれ受診者宛通知されたが、要注意

者、要精密検査者の意外に多いのに驚いて居る（特に胃部、心臓、

高血圧）参考迄その結果をお知らせすると、（受診者九十九名）

要注意者（六十六名）胃部二名心臓二名高血圧一八名糖尿外五名

要精密検査者（二五名）胃部二名心臓一名糖尿二名

畜肉情報

一、牛

東京市場

毎年十二月ともなれば消費が伸び相場も堅調となるのだが、今年は、おだやかな暖い天気の影響で例年のような消費の増大は現在のところ望めない。

相場は、四三〇円から四四〇円の範囲で小幅な値動きの、もちあい相場で推移しており、こ、当分

要医療者（九名）

心臓一名高血圧八名

この数字は成人病検診を受けた僅か九十九名の内の延人数であり、この数字から全体を判断する事は

非常に危険であり適当ではないとおもう。だがこの方々は常日頃何

ん等かの自覚症状の有る方ばかりが受診されたのでもない、全く異常なしの方々も居られる。こう考

えてくると全々受診されたことのない方々の内にも要注意、要精検の

は大きな価格の変動ではないであらう。

大阪市場

大阪市場

前週は、相場展開が鈍く、終始弱もちあいで推移した。この弱気相場は、入荷が多目であったこと、小売店の売れ行きがさえないか

つたことによるものである。

年末は、客観情勢としては上げが予想されるが、入荷が多いため

と、急激な消費の伸びが期待出来ないことからもちあいであらう。

中標津相場

上物（技キ口当り）

方々が可成多数居られるのではな

かろうか。否居られるとおもう。

組合員の健康管理の上からも創

刊号でも若干ふれたが、色々の機

関等で実施される検診には、是非

全員が受診され、その結果にもと

づき精検、治療され、明るい家庭

生活を送っていただきたいもので

ある。



ちりも積って

二千万円突破

これは去る十月十八日から二十三日迄実施した一日皆貯金の実績であるが正確には二千百七拾貳万七百五拾五円であった。

一円、五円、拾円玉をはじめ、ほんとうの「ちりも積って山となる」の諺が、今年も又あらためて痛感させられた。それも、これも組合員の皆さんを始め、婦人部、子



農協関係の年末年始は次の通り休ませていただきますが、明年も今年に倍しましての御利用を心から御願ひ申し上げます。

記

事務所、三十日御用納、三十一日から一月六日まで
ストアー——三十一日午後三時給油所——から一月六日まで

中標津農協同組合

供組合の皆さん、そして貝外の方々の協力で一年一年その実績は上昇し有難いことである。私共は、その協力の上になつて農協貯金は十二月末残高拾億円を達成し、更に新たな目標に向つて、たゆまざる前進を続けたいものである。